

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究

「AYA支援チームのモデル作成に関する研究」

研究分担者 河合 由紀 滋賀医科大学乳腺・一般外科 助教

研究要旨：AYA世代がん患者の支援チームのモデル作成に関し、地域医療におけるローカルネットワークモデルとして、滋賀県内の小児・AYA世代のがん患者に関連する多職種による研修会を開催し、課題と要望に関するアンケート調査を行い検証した。また、前年度の研修後アンケート調査の結果から、前年度に公開されたがん・生殖医療に関する県内共通資材と同様のAYA世代のがん患者支援に関する共通資材の作成を行っている。

院内で活動するAYA支援チームのモデル作成については、ニーズをもとに試行運用を重ね、今後チーム医療として定常化するための取り組みと課題について検証した。

#### A. 研究目的

地域医療におけるAYA世代がん診療体制の現状と課題を把握し、AYA支援ローカルネットワークおよび支援チーム作成の過程と必要とされる要素について、モデル作成を通して検証する。

#### B. 研究方法

##### 【研究1】地域医療におけるAYA世代がん支援ローカルネットワークに関する研究

2019年度、滋賀県、滋賀がん・生殖医療ネットワーク（OF-Net Shiga）、若年がんを考える会との共催によって、小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する、県内共通資材案の作成と啓発および多職種合同の研修会を開催した。本研究ではAYA世代がん患者の広域支援体制に関する調査研究として、研修会終了後に参加の医療者を対象に、アンケートを実施した。医療者を対象としたアンケート調査について、当学の臨床研究担当部署では倫理審査不要との判断であるため、倫理審査の申請は行わなかった。

##### 【研究2】AYA支援チームモデルのニーズと院

#### 内試行

AYA支援チームのモデル作成として、滋賀医大病院内でAYA支援のチーム医療を目的に多診療分野、職種によるAYA世代がんの具体例を症例検討を試行し課題を抽出した。

#### C. 研究結果

【研究1】小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する多職種合同の研修会には、講演者を除いて46名が参加しその約半数は医療従事者以外であった（図1）。自由討論では、行政、学校教諭、医療者、AYAがんサバイバーを交えてそれぞれの立場での経験談を互いに知り、熱心な議論が行われた。終了後にアンケートが実施され、医療者24名から回答を得た。AYA世代がん患者へ説明する際に難しかった経験として、図2のような項目が挙げられた（複数回答）。今後開催してほしい研修の内容には、就学・教育支援、心理支援などに高い要望があった（3項目回答、図3）。

また、AYA世代がん支援について県内統一の資材を試作し、現在パブリックコメントを募集中で

図1. 研修会参加者の属性 ※演者（医師5、看護師2、MSW1、サバイバー1、教諭1、行政1を除く）

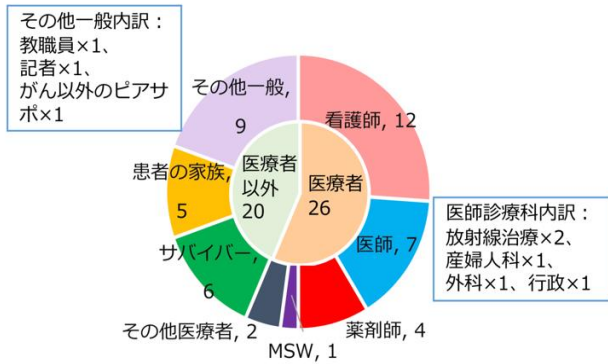


図2. 経験上、AYA世代がん患者へ説明する際に難しかった項目

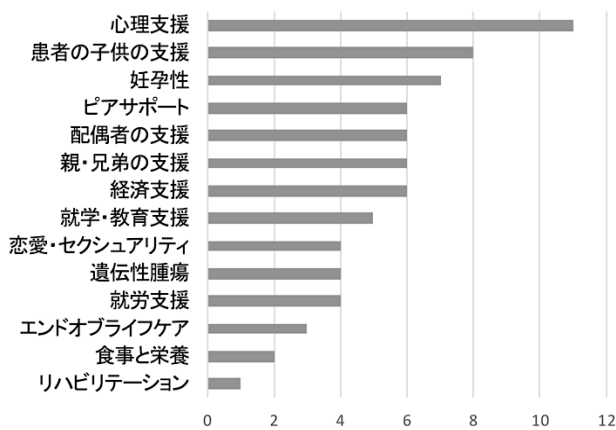
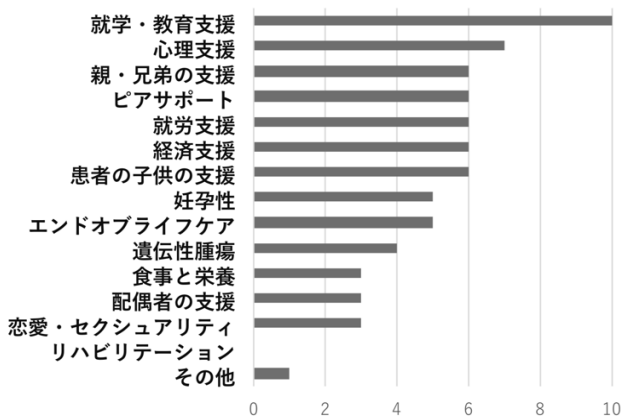


図3. 今後開催してほしい研修の内容



ある。今後、滋賀県がん診療連携協議を交えて普及へ模索する予定である。

【研究2】院内の多診療分野、職種として、小児科（がん、内分泌・代謝）、成人がん診療科、生殖医療（産婦人科、泌尿器科）、臨床遺伝診療の医師、がんに関わる看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、メディカルソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、緩和ケアチーム（重複含む）等の医療スタッフにより、キャンサーボード形式でAYA世代がん症例の検討会を行なった。検討会后、多岐の選択肢が生じたことにより他分野からの介入がより可能となった。緩和ケアチームの病棟ラウンドの際、がんリンクナースなどからAYA世代がん患者の拾い上げを試みているが、AYA支援チームとしての定常運営への移行には至っていない。

#### D. 考察

【研究1】2019年度の小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する多職種合同の研修会では、初めて医療以外の問題である就労・教育支援の問題について、医療者との双方の議論が交わされる場となった。お互いの問題意識を認知し、今後行政を交えてこのような機会を重ねることにより、縦割り支援の枠を越えてAYA世代がん患者へのより良い支援へとつなげることが求められていると伺われた。また、AYA世代がん患者に関する支援事項において、臨床現場で需要のある課題が挙げられ、県内統一の研修方式への要望の高い項目が抽出された。

2018年度、滋賀県、滋賀がん・生殖医療ネットワーク（OF・Net Shiga）、がん診療連携協議会（診療支援部会・相談支援部会）によって、がん・生殖医療に関する県内共通資料の作成とがん診療に関連する県内13施設での統一内容の啓発研修会が開催された。研修会終了後に参加の医療者を



赤堀浩也、太田裕之、塩見尚礼、三宅 亨、清水智治、谷 眞至. BRCA2 遺伝子変異を有し異時性両側乳癌と膵癌を発症した 1 例. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会 2019年6月 東京.

なし

3. その他

なし

2) 河合由紀. シンポジウム「AYA世代の乳がん患者と向き合う」若年性乳癌の現状と課題. 第27回日本乳癌学会総会 2019年7月 東京.

3) 谷 総一郎、三宅 亨、園田寛道、植木智之、飯田洋也、山口 剛、貝田佐知子、河合由紀、清水智治、谷 眞至. Adolescent and Young Adult (AYA) 世代における大腸癌手術症例の検討. 第74回日本消化器外科学会総会 2019年7月 東京.

4) 河合由紀、木村文則、田崎亜希子、木村由梨、清水智治、山内智香子、谷 眞至、村上 節. 滋賀県における共通ツールを用いたがん・生殖医療の取り組み. 第57回日本癌治療学会学術集会 2019年10月 福岡.

5) 河合由紀. まだまだ広がる乳がん治療. 県民公開講座「もっと知ろうがんのこと」 2019年11月 草津市.

6) 河合由紀. 若年者(AYA世代)のがんとがん・生殖医療～治療後の人生設計のために～. 第12回東近江医療圏がん診療公開講座 2019年12月 近江八幡市.

7) 河合由紀. 滋賀にAYA世代がん支援ネットワークを. 公開セミナー「小児・AYA世代のがん患者を支える」 2020年1月 大津市.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録